



わくわく 田原っ子 Part II

令和5年度 学校地域教育目標

やさしく、かしこく、たくましい「山坂達者な田原っ子」の育成

～心豊かでたくましく、自ら考え主体的に行動する子どもを育てる～

学校スローガン ◎自他を大切にしよう ◎考え進んでやってみよう ◎最後までがんばろう

小中一貫校として初の乗り入れ授業(6年生図工)

熊本市の小中学校は、令和元年度から各中学校区ごとに、順次小中一貫校へ移行していっています。鹿南中校区(鹿南中・田原小・菱形小・桜井小)4校も令和4年度はモデル校となり、今年度から小中一貫校となりました。

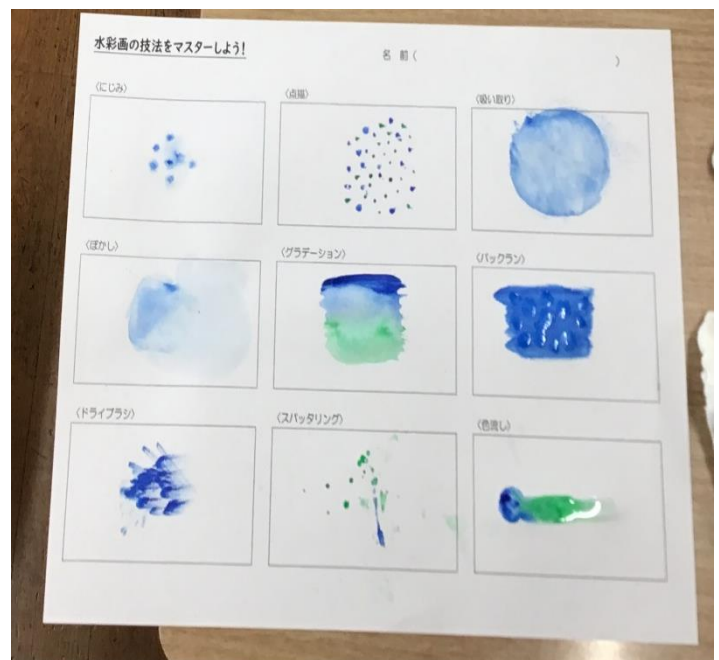
小中一貫校の目的は、各中学校区の課題を解決することとして3つ挙げられています。

- (1) 児童生徒が多様な教職員、児童生徒と関わる機会を増やすことで、小学生の中学校進学に対する不安感を軽減すること。
 - (2) 中学生が小学生との触れ合いを通じ、上級生である自らに自覚的となることで自尊感情を高め、生徒の暴力行為や不登校、いじめの解消につなげていくこと。
 - (3) 小・中学校教職員間の違いを教職員同士が認めた上で互いに学び合い、義務教育9年間で児童生徒を育てる発想を持つよう、教職員に対し促すことにより、教職員に義務教育段階の教職員であることを認識してもらうこと。等 です。
- 期待されるメリットとしては、

- (1) 「中1ギャップ」の緩和・小学生の中学校進学に対する不安感の軽減
- (2) 教育課程の編成・実施による指導の一貫性の確保
- (3) 小中学校間の教職員の意識改革
- (4) 学力向上・学習意欲の向上
- (5) 良好な人間関係の構築・不登校児童生徒の減少
- (6) 小規模校の弊害の解消 などが考えられます。

そこで、鹿南中校区では4校の教職員が集まり、これまでの実践を生かしながら、学校・生徒・地域の実態を踏まえ、系統性・連続性を重視した小中一貫カリキュラムを作成しています。

鹿南中校区の小中一貫校の目標は「認め合い 支え合いながら、共に学び、夢を実現しようとする力を育成する」とし、4つの柱「外国語活動・外国語」「人権学習」「総合的な学習」「生徒指導」を立てました。昨年度は、このことについて、小中で各部会に分かれ、話し合いを持ち、具体的な取り組みを実践してきました。今年度は、その実践を継続し、一步進んだ取り組みとして、中学校の教師が小学校の児童の授業をする「乗り入れ授業」を実施することにしました。対象学年は卒業する6年生です。実技教科である図工(1月22日)と音楽(2月19日)をお願いしました。1月22日にあった図工の授業は、6年生がこれから学習する水彩画についての導入で、様々な色の出し方を動画を使い詳しく教えてくださいました。筆の使い方や水と絵の具の量で変化をもたらす書き方など、大人の私が見ていても、すぐにでも絵を描きたくなるような授業でした。子どもたちは実際にいくつかの書き方を実践し、楽しみながら進めていました。今回の授業では、中学校の先生の顔や人柄を知れたことで、中学校進学への不安な気持ちが少し軽減されたと思いますし、中学校の学習が専門的になってきていることを知り、学習への興味が沸いてきたようでした。子どもたちの感想に「中学校へ行くのが楽しみだ」「難しかったけれど、学習が楽しかった」「学習したことを、使ってみようと思った」と満足な1時間となったようでした。専門性を必要とする教科ですので、その教科のもつ魅力を子どもたちに伝えていただいた授業でした。来月は、卒業式に向けた歌唱の指導です。



※授業が始まる前から、中学校の先生の周りには子どもたちが集まり、中学校に通う兄弟の名前を言って、「知っていますか?」とたずねるなど、教師と児童の交流が始まりました。